

シラバス

学習を始める前に、この「シラバス」を熟読しましょう。

それぞれの科目を学んでいくうえでの要点が記載されています。

科目名	人間の尊厳と自立	時間数	5時間
行動目標	<p>・ 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。</p>		
内 容		時間数	
<p>1. 人間の多面的な理解と尊厳 ①人間を理解すること ②人間の尊厳の意義 ③人権と尊厳をめぐる歴史的経緯 ④人権と尊厳に関する諸規定</p>		2	
<p>2. 自立・自律の支援 ①介護における自立 ②自立への意欲と動機づけ ③自立生活を支えるための援助の視点 ④介護における自立支援の実践</p>		2	
<p>3. 人権と尊厳 ①介護における権利擁護と人権尊重 ②介護における尊厳保持の実践 ③尊厳を無視した介護の課題</p>		1	

科目名	社会の理解 I	時間数	5 時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 		
内 容		時間数	
1. 介護保険制度創設の背景と目的 <ul style="list-style-type: none"> ①介護保険制度の創設をめぐる社会的背景 ②1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革 ③介護保険制度の基本理念 		1.5	
2. 介護保険制度の基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ①介護保険制度の概要 ②保険者・被保険者 ③保険給付の対象者 ④保険給付までの流れ ⑤保険給付の種類と内容 ⑥地域支援事業 ⑦国・都道府県・市町村の役割 ⑧その他の組織の役割 ⑨介護保険の財政 		2	
3. 介護保険制度における専門職の役割 <ul style="list-style-type: none"> ①介護職の役割 ②介護支援専門員の役割 ③その他の専門職の役割 		1.5	

科目名	社会の理解Ⅱ		時間数	30時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ・ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。 ・ 障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ・ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 			
内 容			時間数	
1. 生活と福祉	①庭生活の基本機能 ②家族 ③地域 ④ 社会集団と組織 ⑤ライフスタイルの変化		3	
2. 社会保障制度	①社会保障の役割と意義 ②社会保障の目的と機能 ③社会保障の範囲と対象 ④日本の社会保障制度の仕組み ⑤年金保険 ⑥医療保険 ⑦後期高齢者医療制度 ⑧雇用保 ⑨労働者災害補償保険 ⑩公的扶助 ⑪社会手当 ⑫社会福祉		6	
3. 障害者自立支援制度	①障害者自立支援法から障害者総合支援法へ ②サービスの種類と内容 ③サービス利用の流れ ④自立支援給付と利用者負担 ⑤障害者自立支援制度における事業者と施設 ⑥障害者自立支援制度における組織・団体の機能と役割 ⑦ライフサイクルからみた支援組織		8	
4. 介護実践に関連する諸制度	①サービスの利用にかかわる諸制度 ②虐待防止の諸制度 ③人々の権利を擁護するその他の諸制度 ④保健医療にかかわる諸制度 ⑤医療にかかわる諸制度 ⑥生活を支える諸制度 ⑦住生活を支援する諸制度		13	

科目名	介護の基本 I	時間数	10時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ・ 個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ・ 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 		
内 容		時間数	
1. 介護福祉士制度	3		
2. 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と介護の展開	3		
3. 介護福祉士の倫理	4		

科目名	介護の基本Ⅱ	時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ・ チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ・ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 ・ 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。 		
内 容		時間数	
1. 介護を必要とする人の生活の理解と支援	8		
2. 介護実践における連携	3		
3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント	6		
4. 介護福祉士の安全、介護職員の健康管理と労働法規	3		

科目名	コミュニケーション技術	時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ・援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 ・利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ・状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 		
内 容		時間数	
1.	介護におけるコミュニケーション技術 ①話を聴く技法 ②利用者の感情表現を察する技法 ③利用者の納得と同意を得る方法 ④質問の技法 ⑤相談・助言・指導の技法 ⑥利用者の意欲を引き出す技法 ⑦利用者と家族の意向を調整する技法	6	
2.	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ①コミュニケーション障害の理解 ②高次脳機能障害に応じたコミュニケーション技術 ③失語症に応じたコミュニケーション技術 ④構音障害に応じたコミュニケーション技術 ⑤認知症に応じたコミュニケーション技術	10	
3.	介護におけるチームのコミュニケーション ①チームのコミュニケーションとは ②記録の意義と目的 ③記録の種類 ④記録の書き方と留意点 ⑤記録の文体 ⑥情報の保護と管理 ⑦報告・連絡・相談による情報の共有化 ⑧会議による情報の共有化	4	

科目名	生活支援技術 I	時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を修得している。 		
内 容		時間数	
1. 生活支援とICF		1	
2. ボディメカニクスの活用		1	
3. 介護技術の基本 <ul style="list-style-type: none"> ①睡眠（ベッドメイキング）・夜間の介護 ②体位変換・移動移乗・歩行の介護 ③身支度・衣服着脱の介護 ④入浴・清潔の介護 ⑤食事の介護 ⑥排泄の介護 		18	

科目名	生活支援技術Ⅱ	時間数	30時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。 ・ 利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。（移動、移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱・整容・口腔清潔、睡眠、終末期の介護） 		
内 容		時間数	
1. 利用者の心身の状態に合わせた介護技術 ①身支度・整容・口腔・衣服着脱の介護 ②体位変換・移動移乗・歩行の介護 ③食事の介護 ④入浴・清潔の介護 ⑤排泄の介護 ⑥睡眠のしくみ		14	
2. 環境整備・福祉用具活用等の視点		8	
3. ターミナルケア		8	

科目名	介護過程 I	時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ・ 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ・ チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。 		
内 容		時間数	
1. 介護過程の基礎的知識		7	
2. 介護過程の展開		6	
3. 介護過程とチームアプローチ		7	

科目名	介護過程Ⅱ	時間数	25時間
行動目標	<p>・情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、 介護計画の見直しを行うことができる。</p>		
内 容		時間数	
<p>1. 介護過程の展開の実際 1</p> <p>①利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等） について事例を設定し、介護過程を展開させる。</p> <p>②観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等 についても考察させる。</p>		25	

科目名	介護過程Ⅲ		時間数	45時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ・ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 ・ 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ・ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 			
内 容			時間数	
1.	介護過程の展開の実際 2 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。		15	
2.	介護技術の評価 介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。 ① 移動移乗・衣服着脱の介護 ② 歩行の介護		30	

科目名	発達と老化の理解 I		時間数	10時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ・ 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ・ 老化の種々の特徴を示す概念用語を理解している。 ・ 老化に伴う変化は一面的ではなく、身体・心理・社会的に相互に影響しあうことをトータルで理解している。 ・ 高齢者によく見られる主だった症状を理解している。 			
内 容			時間数	
1. こころの変化と日常生活への影響 ①老化が及ぼす心理的影響 ②自己概念と生きがい			5	
2. 老化に伴うからだの変化と日常生活への影響 ①加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 ②さまざまな機能の変化			5	

科目名	発達と老化の理解Ⅱ		時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ・ 老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。 ・ 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。 ・ 疾患や症状は支援を提供する際の根拠にあたる重要な学習内容である。よって、テキストに限らず、他の文献等も活用しながら、きちんと理解しておく必要がある。 			
内 容			時間数	
1. 人間の成長・発達	<ul style="list-style-type: none"> ① 発達の定義 ② 発達段階と発達課題 		5	
2. 老年期の発達・成熟と心理	<ul style="list-style-type: none"> ① 老年期の定義 ② 老年期の心理的課題と適応 ③ 要介護状態と高齢者の心理 ④ 不適応状態を緩和する心理 		5	
3. 高齢者に多い症状・疾病等	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者に多くみられる症状・訴えと留意点 ② 介護を要する高齢者によくみられる病気・病態 		10	

科目名	認知症の理解 I	時間数	10時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ・ 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ・ 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。 		
内 容		時間数	
1. 認知症ケアの理念と視点 ①認知症ケアの理念 ②認知症ケアの視点		3	
2. 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ①「人」と「生活」の理解 ②認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか ③認知症の中核症状 ④認知症の行動・心理症状（BPSD） ⑤意識障害の理解		3	
3. 認知症の人とのかかわり・支援の基本 ①認知症の人にかかわる際の前提 ②実際のかかわり方の基本		4	

科目名	認知症の理解Ⅱ	時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ・ 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 		
内 容		時間数	
1. 医学的側面からみた認知症の理解 <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症とは ② 認知症の診断 ③ 認知症の原因疾患とその病態 ④ 認知症の治療と予防 		10	
2. 認知症の人や家族への支援の実際 <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症のアセスメント ② 初期の認知症への介護 ③ 中期の認知症への介護 ④ 後期の認知症への介護 ⑤ 環境の整備 ⑥ 認知症ケアにおけるチームアプローチ ⑦ 家族へのレスパイトケア 		10	

科目名	障害の理解 I	時間数	10時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ・ 障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ・ 障害（児）者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 		
内 容		時間数	
障害者福祉の理念 ①国際障害分類と国際生活機能分類 ②障害者福祉の基本理念		3	
障害による生活障害、心理・行動の特徴 ①身体障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 ②知的障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 ③精神障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 ④高次脳機能障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 ⑤発達障害による生活障害、心理・行動の特徴		3	
障害児者や家族へのかかわり・支援の基本 ①家族の理解と障害の受容支援 ②介護負担の軽減		4	

科目名	障害の理解Ⅱ	時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 ・ 障害（児）者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 		
内 容		時間数	
1. 医学的側面から見た障がいの理解 <ul style="list-style-type: none"> ①視覚障害 ②聴覚・言語障害 ③運動機能障害 ④心機能障害 ⑤呼吸機能障害 ⑥膀胱・直腸機能障害 ⑦肝臓機能障害 ⑧知的障害 ⑨精神障害 ⑩難病 		10	
2. 障害児者への支援の実際 <ul style="list-style-type: none"> ①基本的視点にもとづいた個別支援 ②地域におけるサポート体制 		10	

科目名	こころとからだのしくみ I	時間数	20時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。 ・ 身体の構造などは絵を描いて覚える努力を求めたい。 ・ 姿勢・体位等は自己演習を積むことで理解が進むので、その努力を求めたい。 		
内 容		時間数	
1. 移動・移乗に関連するからだのしくみ ①基本的な姿勢 ②基本的なからだのしくみ		4	
2. 食事に関連するからだのしくみ ①基本的なからだのしくみ ②栄養とエネルギー ③代償的な栄養摂取法		4	
3. 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ ①基本的なからだのしくみ ②入浴と清潔保持の意味		4	
4. 排泄に関連するからだのしくみ ・ 基本的なからだのしくみ		4	
5. 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ ①基本的なからだのしくみ ②着脱、整容、口腔清潔の意味		4	
6. 睡眠に関連するからだのしくみ ①基本的なからだのしくみ ②こころのしくみ		4	

科目名	こころとからだのしくみⅡ	時間数	60時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 ・生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 ・身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 ・人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、人体の構造などは絵を描いて覚える努力を求めたい。 		
内 容		時間数	
1. 人間の心理	<ul style="list-style-type: none"> ①人間の欲求の基本的理解 ②こころのしくみの基礎 	3	
2. 人体の構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ①生命の維持・恒常のしくみ ②人間のからだのしくみ ③ボディメカニクスの活用 	15	
3. 身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ①移動移乗の観察ポイント ②食事の観察ポイント ③入浴・清潔保持の観察項目 ④排泄の観察ポイント ⑤着脱、整容、口腔清潔の観察ポイント ⑥睡眠の観察ポイント ⑦終末期における観察ポイント 	42	

科目名	医療的ケア	時間数	64時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎的知識を修得する。 ・医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解する。 ・感染予防、安全管理体制等についての基礎知識を修得する。 ・手洗いの方法やエプロン・マスクの着脱順など、自己演習を積むことで理解が進むので、その努力を求めたい。 ・呼吸のしくみとはたらき、吸引を受ける人の気持ちの理解など、吸引の基本的知識を学ぶ。 ・喀痰吸引における急変・事故発生時の対応などを理解する。 ・呼吸器系の臓器の絵を描いて覚える努力を求めたい。 ・喀痰吸引の実施手順を理解している。 ・消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を学ぶ。 ・消化器系の臓器の絵を描いて覚える努力を求めたい。 ・経管栄養における急変・事故発生時の対応などを理解する。 ・経管栄養の実施手順を理解している。 ・通信の課題には設定していないが、テキスト巻末の自宅学習用「喀痰吸引・経管栄養の留意点」DVDを参考にして、正確な手順とそれらの行為の意味・意図を必ず覚えておくことで、スクーリングの際の理解が深まる。そのことが安全・安心な技術の提供につながる。 		
内 容		時間数	
1.	医療的ケア	3.5	
2.	安全な療養生活	4	
3.	清潔保持と感染予防	2.5	
4.	健康状態の把握	3	
5.	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	11	
6.	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説	8	
7.	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	10	
8.	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説	8	

